

脱炭素技術等による工場・事業場の省CO2化加速事業(SHIFT事業)のうち、DX型CO2削減対策実行支援事業

No.	GAJ事業番号	代表事業者	支援対象工場・事業場	所在地	事業実施期間
<a href="#">1</a>	1512001	医療法人弘生会	関屋病院	奈良県香芝市	単年度
<a href="#">2</a>	1522001	株式会社太陽堂封筒	本社	東京都新宿区	複数年度
<a href="#">3</a>	1522002	株式会社チューブ製作所	株式会社チューブ製作所 本社工場	岐阜県関市	複数年度

## 【実施計画】

事業者名	医療法人弘生会				
事業場名	関屋病院				
事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 単年事業	<input type="checkbox"/> 2ヵ年事業			
CO2排出量	参考年度	1,044	t-CO2		
現状の課題 (改善項目)	各種設備の老朽化に伴い、現状の運用におけるエネルギー効率の評価と運用改善または投資回収年数も踏まえた設備導入対策の検討 部分的な設備の具体的な低コストの運用改善対策の検討				
DX型CO2削減対策 実行支援実施後の 設備対策実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> SHIFT事業に応募して対策実施予定	<input checked="" type="checkbox"/> 他の補助金に応募して対策実施予定	<input type="checkbox"/> 自費で対策実施	<input type="checkbox"/> 運用改善のみ	
	SHIFT事業「省CO2型システムへの改修支援」に応募して対策実施予定の場合は、応募予定年度についても記入する。 【応募年度 令和8 年度】				

## 【DXシステム計測の根拠・目的】

□ 入力セル

□ プルダウンメニュー選択セル

□ 自動計算・自動転記セル

No.	対象設備・機器・システム名	対象数	計測・分析項目 (※2)	計測目的・根拠/改善したい項目・内容 (※3)	想定対策内容 (※4)	改善種別 (※5)	設備対策実施方法 (※6)	水平展開 (※7)
DX シ ス テ ム に よ る 計 測  (※1)	1	2	電力	既存設備は更新時期を迎えており、効率が悪くなっていると考えられるため、最新の高効率エアコンに更新することで、DXシステムによる電気使用量を計測・明確化し、電力資料量の削減、CO2排出量の削減を図る。	高効率パッケージエアコンへの更新	設備導入 (更新)	高効率パッケージエアコンの導入	可
	2	2	電力	現状空調の温度設定はおおよそ冷房24℃、暖房24℃で運用されていることが多く、緩和余地のある温度設定である。室内温湿度をロガーで継続計測し、快適性の範囲や外気条件との関係を把握するとともに、空調機の消費電力を同時に記録する。これにより、現在の設定が過剰に快適性を確保しているかを検証し、緩和可能幅 (例: 25℃ (冷房)・23℃ (暖房) など) を判定する。緩和後は前後同条件の電力使用量を比較し、省エネ効果とCO2削減量を明確にする。	冷房・暖房の温度設定を緩和する	運用改善	冷房・暖房の温度設定の設定温度の管理・運用	可
	3	2	電力	過剰な外気取り入れをしていることにより、空調負荷が大きくなるので、CO2濃度が適正範囲 (1,000ppm以下) で目づ過度に低くならないように、外気取入れ量を低減することで空調負荷を低減する。 室内のCO2濃度と空調電力をロガーで長期間計測し、外気条件や在室状況との相関から実効換気量を推定する。必要換気量と比較して過剰が推定される場合、その分の外気負荷を熱量換算し、電力データと突き合わせることで、省エネ余地を定量的に評価する。	CO2濃度を緩和する	運用改善	換気量低減のための外気取入れファンの管理・運用	可
	4	2	電力	セントラル空調熱源機のポンプは稼働時間が長く、インバータによる搬送動力削減の可能性がある。 ポンプの電力量を計測し、空調負荷の変動に対し搬送動力の削減余地を確認する。	インバータ制御の導入検討	部分改修/機能付加	インバータ導入または周波数調整	可
	5							

## 【実施計画】

事業者名	株式会社太陽堂封筒									
事業場名	本社									
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年事業	<input checked="" type="checkbox"/> 2ヵ年事業								
CO2排出量	参考年度	68	t-CO2							
現状の課題 (改善項目)	<p>・製造設備（乾燥炉等）からの排熱により、空調負荷増加及び通年冷房運転状態となっており、設備稼働状況と空調負荷状況を把握した上で設備改修を検討する必要がある。</p> <p>・封筒製造設備において、付帯設備の運転が本体設備の運転に合った制御にし、待機電力等低減などの改善を図りたい。</p> <p>・現状、省エネ活動に対する体制がなく、持続的改善が困難であるためDX機器を導入し、電力消費見える化し、省エネ意識づけと体制づくりを図りたい。</p>									
DX型CO2削減対策 実行支援実施後の 設備対策実施方法	<input checked="" type="checkbox"/>	SHIFT事業に応募して対策実施予定	<input checked="" type="checkbox"/>	他の補助金に応募して対策実施予定	<input checked="" type="checkbox"/>	自費で対策実施	<input checked="" type="checkbox"/>	運用改善のみ		
	SHIFT事業「省CO2型システムへの改修支援」に応募して対策実施予定の場合は、応募予定年度についても記入する。					【応募年度	年度】			

## 【DXシステム計測の根拠・目的】

 入力セル プルダウンメニュー選択セル 自動計算・自動転記セル

No.	対象設備・機器・システム名	対象数	計測・分析項目 (※2)	計測目的・根拠/改善したい項目・内容 (※3)	想定対策内容 (※4)	改善種別 (※5)	設備対策実施方法 (※6)	水平展開 (※7)	
DXシステムによる計測 (※1)	1	真空発生装置	3	電力	<p>■計測目的と根拠</p> <p>・封筒製造装置付帯の真空発生装置の制御並びに電力消費が明らかになっておらず、過剰な電力消費が想定されます。</p> <p>■改善したい項目・内容</p> <p>①待機時、稼働時の適切な装置制御設定による、電力消費抑制。</p> <p>②待機時の設備電源遮断</p>	・付帯装置待機時の電源遮断	運用改善	・待機時の電力OFF運用の設定	-
	2	空調	4	電力	<p>■計測目的と根拠</p> <p>・空調稼働における電力量と設備稼働状況とを明らかにし、製造設備側対策効果を評価する。</p> <p>■改善したい項目・内容</p> <p>①乾燥炉等生産設備からの放熱・排熱が確認できるため、断熱強化による空調負荷軽減</p>	設備からの排熱抑制 作業場の排熱処理 空調設定温度の緩和	部分改修/機能付加	・乾燥炉断熱強化 ・製造現場排気強化	-
	3	乾燥炉	2	電力	<p>■計測目的と根拠</p> <p>・乾燥炉より放熱が見られるため、断熱強化対策前後の電力消費状態を検証する。</p> <p>・立ち上げタイミングや、待機時の炉温設定運用見直しによる電力低減を図る。</p> <p>■改善したい項目と根拠</p> <p>①乾燥炉断熱強化による電気ヒータ負荷抑制。</p> <p>②必要タイミングでの立ち上げ、休憩・仕掛待ち時の炉温低下運用による消費電力抑制。</p>	・乾燥炉断熱強化 ・炉温保持運用に設定	運用改善	・乾燥炉断熱強化 ・炉温保持運用の設定	-
	4								
	5								

## 【実施計画】

事業者名	株式会社チューブ製作所				
事業場名	本社工場				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年事業	<input checked="" type="checkbox"/> 2ヵ年事業			
CO2排出量	参考年度	145	t-CO2		
現状の課題 (改善項目)	工場新設立ち上げ後、消費エネルギー量が増加を確認。 変化点として、空調能力増強等を実施しており、効率的な運用、空調負荷抑制が課題と判断。 また、工場全体の電力消費比率が見えておらず、見える化を進め対策立案・実施できる体制の整備が課題である。				
DX型CO2削減対策 実行支援実施後の 設備対策実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> SHIFT事業に応募して対策実施予定	<input checked="" type="checkbox"/> 他の補助金に応募して対策実施予定	<input checked="" type="checkbox"/> 自費で対策実施	<input checked="" type="checkbox"/> 運用改善のみ	
	SHIFT事業「省CO2型システムへの改修支援」に応募して対策実施予定の場合は、応募予定年度についても記入する。			【応募年度	年度】

## 【DXシステム計測の根拠・目的】

 入力セル

 プルダウンメニュー選択セル

 自動計算・自動転記セル

No.	対象設備・機器・システム名	対象数	計測・分析項目 (※2)	計測目的・根拠/改善したい項目・内容 (※3)	想定対策内容 (※4)	改善種別 (※5)	設備対策実施方法 (※6)	水平展開 (※7)	
DXシステム による計測 (※1)	1	空調機器	複数台	電気	<ul style="list-style-type: none"> <li>■計測目的・根拠 空調設定や稼働時間など運用面でロスが推測されるため電力データを取得</li> <li>■改善したい項目・内容 空調稼働運用の最適化（立ち上げ開始タイミングと設定温度）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運転時間の適正化</li> <li>・設定温度の緩和</li> <li>・空調負荷の軽減</li> </ul>	運用改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運転時間運用設定</li> <li>・設定温度の緩和ルール設定</li> </ul>	可
	2	マシニングセンタ	4	電気	<ul style="list-style-type: none"> <li>■計測目的・根拠 待機電力、付帯装置の電力等不明であり、電力データ取得して切り分けする。</li> <li>■改善したい項目 待機電力の低減、付帯装置の適正稼働化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・待機電力の低減</li> <li>・付帯装置の適正稼働化</li> </ul>	運用改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・待機時停止運用設定</li> <li>・付帯装置の適正稼働運用設定</li> </ul>	—
	3	コンプレッサー	2	電気	<ul style="list-style-type: none"> <li>■計測目的 設定圧妥当性、待機電力の可否によりロスが想定されるため電力データを取得</li> <li>■改善したい項目・内容 供給圧力の適正化、非稼働時の停止、エア漏れ修繕による負荷低減、高効率コンプレッサー機への更新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・供給圧力の適正化</li> <li>・非稼働時の停止</li> <li>・エア漏れ修繕による負荷低減</li> <li>・高効率コンプレッサー機への更新</li> </ul>	運用改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・供給圧力適正值設定</li> <li>・非稼働時の停止運用設定</li> <li>・エア漏れ修繕対応</li> </ul>	可
	4	電灯設備	複数台	電気	<ul style="list-style-type: none"> <li>■計測目的 電灯系電力消費に対し太陽光発電設備での供給検討を進めたく、電灯電力の消費実績データを取得する</li> <li>■改善したい項目・内容 現状の電灯系電力を太陽光発電電力でカバーし、事業所全体の電力消費削減を狙う</li> </ul>	太陽光発電設備の追加設置（増強）	設備導入（更新）	太陽光発電設備の導入	—
	5								